

日本図書館文化史研究会
2009年度第2回研究例会のご案内

2009年度第2回の研究例会を、下記のように開催します。是非ともご参加ください。

記

- 日 時 11月28日(土) 13時30分～15時40分
- 場 所 明治大学 リバティタワー6階1062教室
http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/
- 参加費 無料
- 申込方法 参加ご希望の方は、氏名(ふりがな)、所属を明記して、下記申込先まで、はがき、ファックス、または電子メールにてお申し込みください。
- 申込先: 〒321-3295 宇都宮市竹下町908
作新学院大学 司書・司書教諭課程 小黒 浩司
電子メール: oguro@sakushin-u.ac.jp
ファックス: 028-670-3671
- 申込締切 11月23日(必着) でお願ひします。

【発表1】

- 発表者

奥泉 和久 (横浜女子短期大学図書館)

- 発表題名

図書館年表論・序説

- 発表要旨

図書館史に関する著作には、「図書館年表」が付されることは少なくなく、〇〇周年記念誌のなど場合にも、必ずといってよいほど「年表」が記される。館種を問わず、図書館の規模の大小にも関わりなく、「図書館年表」の果たす役割は、補助的とはいえ、重視されている。

ところが、「図書館年表」を正面から論じた論文には、天野敬太郎氏の一編があるのみであり、「年表」は重視される一方で、研究対象としてまともに論じられることはなかった。ここでは、石井敦氏の「図書館年表に関するメモ」(仮称、奥泉の記録による)を紹介しながら、報告者の近著『近代日本公共図書館年表』(日本図書館協会, 2009)をもとに、「図書館史年表」作成の意義を検討する。

【発表2】

○ 発表者

小黑 浩司 (作新学院大学)

○ 発表題名

明治大学図書館蔵『検閲週報』について

○ 発表要旨

明治大学図書館には『検閲週報』合冊製本1冊を所蔵している。本発表では最初に、この『検閲週報』の他図書館等での所蔵状況についての調査結果を報告し、『検閲週報』の発刊と頒布の経緯を考察する。

次に明大本『検閲週報』の合綴文書類を紹介する。まず中間部には、1944年6月以降に内務省が作成したとみられる、図書館での閲覧禁止資料に関する取り扱い要領等を示した文書が綴じられている。これは同年5月の内務・文部両省による「出版物閲覧指導強化」に関連して作成されたものと推定される。

また巻末には、所轄署特高係の名刺や発禁や削除となった資料が綴じられている。これも第二次世界大戦末期における大学図書館統制の実態を伝えるものであるので、周辺資料などを含めて、少し詳しく紹介したい。

会場案内

